

高齢化社会を迎えた現在、一人の患者が複数の診療科を受診するケースが多くなっている。その場合、1医療機関内にとどまらず複数の医療機関を利用することもある。複数の診療科または医療機関が診療記録を共有するためには、医療機関同士の情報の受渡しが必要となる。

Web化時代に対応し、電子カルテなどの情報の受渡しには、医療情報に関わる用語とコードの標準化が欠かせない。この医療情報の用語とコードの標準化の開発と普及に取り組んでいるのが医療情報システム開発センター(略称IIMEDI S-IDC)だ。現在、病名、臨床検査、医薬品、医療機器などの用語・コードを体系的にまとめたもので、10の分野で標準マスターを作成し、多くの病院、診療所で利用されている。

例えば、標準病名マスターには、約2万件の病名が含まれており、電子カルテ、オーダーング、レセプト電算処理などの作業において、病院が異

なっても共通の病名を1つの体系表で取扱うことができる。また、医薬品マスターは、「HOTT」という基準番号を基に、薬価基準収載医薬品コードや日本共通商品コードなど様々なコードが互いに連携できるようにしている。

複数病院で共通語 DBが徐々に充実し体系化

売を開始している。

用語入力支援

ディカプレットは、最新の標準病名、医薬品名、医療薬用語、医療用医薬品添付文書用語、各種対応用語など約100万語を超える見出し語を作成、収録している。

また、ICD-10コードや各種医薬品コードに対応しているため、コードと専門用語の双方方向からの変換に加え、適応症・禁忌症状などから対応医薬品名を表示することができる。

入力可能な医療用語は、標準病名、索引病名、医薬品販売名、医薬品一般名、適応症、禁忌、薬効分類名などがあり、電子カルテやオーダーエントリシステム、医療会計システムの入力などに有用なツールとなる。

現在、コンピュータ用の「日本語入力かな漢字変換ソフト」の「かな漢字辞書データ」には標準病名・医薬品名などは登録されていないため、マイクロソフトのIME辞書と連携する形で提供される。

医療関連専門のシステム開発会社であるアイテ

ムコーディネットは、病名から医薬品など各種医療情報を検索できる医療用語入力支援ツール「Dicaplett(ディカプレット)」を開発。2年間のモニター販売を経て今年4月から本格販